

\*『ジャイモン』ネパール語で「主(神)を讃美しよう」の意

## NHA卒業生の日本留学について

2013年にNHAの卒業生を近畿大学付属高校に留学生として送ることになります。海外への留学は、今から約3年前から祈り、準備してきたことです。



留学予定者  
サリタ・シェस्ता

なぜ、NHA卒業生に海外留学の機会を与えたいと願っていたのか。その理由はいろいろありますが、最も大きな理由の1つは、NHAの成績優秀な卒業生の中から、ネパールで社会的リーダーとなる人材を養成することです。ネパールでは、たとえ大学卒業まで優秀な成績を修め続けたとしても、就職の機会も、個人的能力を発揮する機会も決して多くは与えられません。

それで考えたのが海外留学です。ネパール国内にとどまっていたは受けることのできない教育と経験を通して、立派な社会的役割を果たす人材が育つことを期待しているのです。また、たとえ貧しくても、努力によって留学の機会が与えられ、個人の発展、また、ネパールの社会的リーダーを担うにふさわしい人材として育てていけるとすれば、勉学に勤しむ学生たちにとって大きな励みになること

と思います。

では、なぜ近畿大学付属高校なのか。実は、海外留学を実現するため、まず韓国の大学を調べました。しかし、奨学生として入学を許可してくれる大学はありませんでした。入学金、授業料を納入することは一般の貧しいネパール人にとっては不可能なことなのです。



2012年5月近畿大学付属高校訪問

そのような状況下で、このビジョンと課題についてBFNと話し合いました。約2年前のことです。そして、BFNの紹介で、ある大学を訪問する機会が与えられましたが、そこでも状況は韓国と同じで、失意に陥るしかありませんでした。

しかし、神さまは恵みによってある方を通じて、近畿大学付属高校への留学の道を開いてくださいました。NHA卒業生の中から毎年1人ずつ、奨学生として高校2年から受け入れてくださるといのです！ 加えて、大きな懸案事項でありましたホームステイ先となったださるご家庭をも神さまは備えてくださったのです！

まずは2年間、2人の学生の留学が試験的に認められた段階ですが、ここまで導いてくださった神さまの恵みに感謝するばかりです。

人材に投資することは最も効果的なインフラです。これはネパールの次世代、そしてネパールの未来のための投資でもあります。NHA卒業生の中から、貴い役割を担う立派な社会的リーダーが育つことを心から願っています。

最後に、いつも温かいご支援を賜りまして、心より感謝いたします。今回の留学につきましても、皆様のお祈りをお願い申し上げます。



NHA相談役 崔根敏(チェ・グンミン)

### 目次:

NHA卒業生の日本留学について	1
近畿大学付属校を視察して	2
ネパールのカースト制度(2)	2
ボランティア奮闘記	3
NHAの先生紹介(1)	3
アクリチ・ラジタラの日常生活	4
質問箱	5
ネパール豆知識 ネパールの山には木がない?	5
支援者状況 (‘12年4月~’12年9月)	6
新たに支援される子供たち (‘12年4月~’12年9月)	6
新中期目標	6
長期ビジョン積立金	6
編集後記	6

### ハイライト:

近畿大学付属校を視察して  
NHA校長ピーター・マハリアン  
(2ページ)

連載  
ネパールのカースト制度(2)  
コモル・プラサド・ポカレル  
(2ページ)

ボランティア奮闘記  
小島友也  
(3ページに写真を掲載)

NHAの先生紹介(1)  
(3ページ)

アクリチ・ラジタラの日常生活  
(4ページに写真を掲載)

## 近畿大学付属校を視察して

今年の夏、私は日本を訪問しました。そして幼稚園、小学校、中学校、高校を1校ずつ、また2つの大学を訪問しました。日本の教育施設を見学できたことは非常に有益でした。

奈良にある近畿大学付属小学校を一目見、感動しました。小さな校舎であろうと想像していましたが、驚くほど立派な校舎でした。広い運動場、教室、体育館、図書館などがあり、その配置まで生徒の年齢に合わせて整えられています。また教育内容にも感銘を受けました。1つのクラスに2人の教員が配置され、授業では多くの実践活動がなされています。昆虫公園のような独自の施設もあります。どのようにすればNHAにおいて、このようにすばらしい教育環境を整えることができるだろうかと自問しました。

次の日、私は近畿大学と近畿大学付属高等学校・中学校を訪れました。中学校はちょうど参観日で、教室の後ろにはたくさんの保護者の方がいました。これは日本の保護者がどれほど教育に熱心であるかということを示しています。教員は自分たちの技術を保護者に見せることを誇りに思っていると聞きました。NHAにおいてもこのような熱心な保護者や教員を持つことができればと願います。

今回の訪問から、私は多くのことを学びました。日本は先進国であり、日本の教育政策は発展に大きく貢献してきました。ネパールは発展途上国です。日本がなしたような発展を一夜でなすことはできません。また私は1つの学校の校長に過ぎず、ネパールの教育に大きな貢献をもたらすことはできないかもしれません。しかし、日本を訪問し、私はNHAでの教育活動に大きな変化をもたらす多くのヒントを得ることができました。

このような訪問の機会を与えてくださったBFNの皆さまに心から感謝します。



NHA校長 ピーター・マハリヤン

## ネパールのカースト制度(2)

### カースト制度の起源

カースト制度は、紀元前1500年頃インドに色白のアーリア人たちが南ヨーロッパ、北アジアからインドにやって来た時始まりました。アーリア人が来る前、インドには、ネグリト(熱帯地方人種)、モンゴロイド(チベット系)、オーストロロイド(オーストラリア系)、ドラヴィダ族(地中海地方系)などが住んでいました。ドラヴィダ族は、インドにおいて最も大きい社会を形成しました。侵入したアーリア人は、地元の文化、住民を軽視しました。北インドの地方を征服し、住民を南、もしくは北インドのジャングルや山々に追い込みました。

アーリア人は、彼ら自身を三つのグループに組織しました。最初のグループは、兵士でラジャヤナと呼ばれ、後にクシャトリアと呼び名を変えました。二つ目のグループは司祭、指導者のグループでブラフマンと呼ばれました。これらの二つのグループがアーリア人の間で政治闘争をしました。この闘争においてブラフマンの人々がアーリア人社会においてリーダーシップをとることとなりました。三つ目のグループは農民、職人たちで、バイシャと呼ばれました。アーリア人たちは、原住民を力づくで従わせました。この過程において農民、また職人であるバイシャの人々は、地主や商店主(ビジネスマン)になり、原住民は、農民(農奴)や職人になりました。

アーリア人は、原住民たちを自分たち社会の中に入れようとはしませんでした。原住民は、それぞれの職業に基づき、宗教上清浄の仕事に就いていた人々は、第4階層のシュードラ(隷属民)に、宗教的不浄の仕事に就いていた人々は、アウトカースト(不可触民)となりました。ブラフマンの階層の人々は、清潔さに非常に厳しい人々でした。ブラフマンは、アウトカーストの人が直接触れるだけでなく、空気に触れるだけでも病気に感染すると信じていました。おそらくこのような理由で、アウトカーストの人々は高い階層の人々の社会集団に関わることを禁じられただけでなく、実際にある距離を離れて立たなければなりませんでした。

現在のネパールのカースト制度は、シャー王朝の創始者(1769年ネパール統一)、プリトビーナラヤンの「ネパールは4つのカーストと36の民族(民族ごとに分けられたカースト)の園であった」という有名なことばに由来します。インドと大きく違うのは、ネパールは、それぞれ民族にもカーストがあり、複雑な社会構成になっています。



元NHA教頭 コモル・プラサド・ポカレ

## ボランティア奮闘記



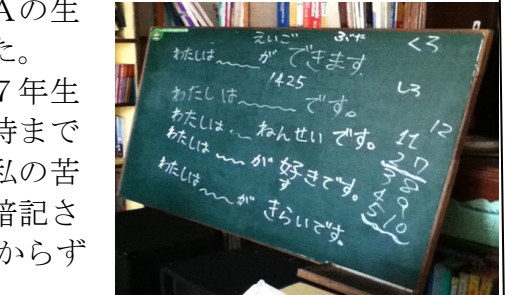
8月下旬から9月下旬にかけての一か月間、日本語教師としてNHAに行った。来年4月にNHA卒業生のサリタが日本に留学するので日本語を教えるのが目的だ。また、NHAの生徒に日本語を教える機会も与えられた。

朝の8時から9時までは、NHAの7年生(中学1年生)に、9時半から16時までにはサリタに日本語を教えた。授業は私の苦手な英語で行なった。文法や単語を暗記させ、毎回テストを行った。最初の一週間は、何をしたらいいのか分からず準備に苦労した。

それでも毎日の授業は楽しく、勉強意欲は日本の生徒に引けをとらない。特にサリタは日本留学のために本気で勉強している様子が見られたし、7年生も日本への強い憧れが感じられた。日本人としての誇りを感じたし、感謝されることを通して励ましも得た。

しかし、教えていく中で悩むようになった。受験戦争に馴れている日本の生徒は宿題を出されても、多くは仕上げてくる。しかし、サリタを含めNHAの生徒は宿題を大量に出されることには馴れていない。電力不足もあり自宅で勉強するには難しい環境にあるが、宿題をしてこない生徒が多い。語学は短期間で成果が出るものではない。思ったように学習が進まず、焦りと不安に襲われることがしばしばあった。授業は、かなり厳しく行なった。サリタや7年生は、本当に良く頑張った。宿題もやって来るようになった。

日本語ボランティアを経験して思ったことは、彼らの勉強に対する目的意識と本気度である。これはNHAだけでなくネパール全体の問題であろう。生徒自身が自分で考え、自分で学び、自分で行動を起こすことだ。NHAの生徒が留学するには、しっかりした目的意識と本気になる必要がある。そんな彼らに触れて、日本語教師のボランティアの難しさも初めて経験した。目的意識と本気度は自分が学ばなければならないのだと。



日本語教師ボランティア 小島友也

## NHAの先生紹介(1)

### 伝統舞踊の授業

娯楽は色々ありますが、踊りは老若男女すべてが好むものです。世界にはたくさんの踊りがありますが、それらは現代的、民族的、古典的の三つの種類に分けることができます。

ネパールは民族舞踊で有名ですが、多言語、多文化、多民族の国なので、踊りは文化や民族性に基づいています。人々は宴会や祭りで踊って楽しめます。映画にも欠かせない要素です。

踊りは楽しいだけでなく、良い運動になります。NHAでは週一回舞踊の授業があります。読書や宿題など机上の勉強だけでは、学習が単調なものになってしまいがちですが、踊りは彼らに元気を与え、笑顔にします。生徒の身体的、精神的な健康を促進する助けとなるのです。

また、踊りはネパールの文化、言語、民族の伝統衣装を保存することにも役立ちます。NHAでは、子どもたちは伝統的な民族舞踊と現代的なダンスを学びます。これは彼らが自分たちの文化、伝統を学び、保つ助けとなっています。ですから踊りは生徒たちに必要不可欠なものだと思います。



NHA伝統舞踊講師 ビノド・チャバ

## アクリチ・ラジタラの日常生活

子供の名前 :アクリチ・ラジタラ

学 年 :4年生

お父さんの名前:アシャマル・ラジタラ

お父さんの仕事:配管工

お母さんお名前:カンチヒ・ラジタラ

お母さんの仕事:主婦

アクリチはNHAの4年生です。一人っ子で、配管工の父親、主婦の母親、彼女の3人家族です。2009年にBFNの奨学生に選ばれました。内気ですが、良い生徒です。勤勉であり、試験ではよい成績を修めています。



朝7時に起床し、21時に寝ます。学校は家から非常に近く、歩いて5分です。学校から帰るとおやつを食べ、宿題をし、水汲み、部屋の掃除、皿洗い、洗濯、台所仕事の手伝いなどの家事をします。

彼女はBFNの奨学金のおかげでNHAで学ぶことができることをとても喜んでおり、これからも

一生懸命勉強すると言っています。里親からのプレゼントや手紙を大変喜び、里親の方に感謝しています。



母親によると、アクリチは家でも熱心に勉強しているそうです。母親は勉強について何も言う必要はありません。遊ぶことよりも勉強に多くの時間を割いています。勉強について非常に熱心です。また家事もよく手伝います。



アクリチの母親の感謝の言葉は次の通りです。

「私の娘、アクリチに対し奨学金を与えて下さり、BFNの皆さまに大変感謝しております。ご支援

により、娘が素晴らしいNHAに通えていることを大変喜んでいます。夫は配管工として働いていますが、私たちの収入源はそれしかありません。

経済的な状況から子どもをこれ以上持つことができません。あなた方の親切な愛に本当に感謝しております。」

アクリチの担任の先生は次のように言っています。

「アクリチはよい生徒です。授業はしっかり理解しています。教室ではあまり話をしませんし、教員に質問をすることはありません。彼女は恥ずかしがり屋です。しかし、教員が彼女に質問をした時には、楽々と答えます。しつけの良い、根気強い生徒です。私は彼女がよりよい人生を送ってくれることを願っています。」



ウジャラ・シレスト

## 質問箱

**質問:**「幼稚園の子供から支援したいのですが、ネパールやNHAの幼児教育は、どのようになっていますか。日本の子供たちと違いますか。」

**回答:** ネパールは、小学校には90%の子供達が入学してきますが、中途退学するものが多く、10学年を卒業する生徒は、男女合わせて4分の1程度です。退学する理由は、学費が払えないこと(授業料は無料ですが、先生の給料が安いために試験料とか補講費の名目で徴収される)、そして子供達が重要な労働力であることです。しかし、親たちは、子供達に高い授業料を払って、少しでも良い学校に行かせたいと願っています。それが貧困を脱出する唯一の道だと考えているからです。特に都会に住んでいる家ほどその傾向は強いです。ネパール政府も就学前教育として、4歳から5歳の幼児と4歳児未満の子供と分けて力を入れていますが、財政的に公立の幼稚園の拡大は殆ど見込めません。地方には幼稚園がないために、小学校に3歳から入学させたりして、本来の小学校教育さえ満足にできない地域さえあります。幼児教育と小学校教育は異なりますが、小学校のように授業していれば良いと考えている幼稚園や、教師も専門的な幼児教育の知識がない幼稚園がほとんどです。専門的な幼児教育ができる幼稚園の多くが外国のNGOによる援助を受けた私立幼稚園です。NHAは大学を卒業した専門の二人の先生が担当しています。幼児たちに必要な教育を施していますが、設備や人員にも限界がありこれからの課題でもあります。



NHAの幼稚園児(2011年度)は、次の通りです。

NHAの幼稚園児(2011年度)は、次の通りです。

教育期間	女	男	合計
年少	41	25	66
年中	31	27	58
年長	28	38	66

## ネパール豆知識 (これって知ってた?)

### ネパールの山に木がない?

ネパールでは、耕作地が少ないため、山林を伐採して耕地にしたり、また燃料として木を切るため、森林の破壊が急速に進行しています。また、森林破壊による災害(土砂崩れ)なども発生しています。

ネパールは、農業国であり、人口の95%が農業に従事しています。国土の大部分をヒマラヤ山系をはじめとする山や谷が占めているため、国土の12%しか農耕地として利用できません。特に、高度の低い山では、頂上近くまで、棚田、段々畑を切り開いて、米、とうもろこし、大麦、小麦を植えるため森林を伐採します。また、石油、石炭、天然ガスなどのエネルギー源を殆ど産出しないため、炊事用、暖房用の薪を取りに行きます(都会ではプロパンガスを使用しているところもあります)。森林破壊は、森林の伐採だけではなく、山羊、羊、ヤクなどの家畜が過放牧になり、家畜がどんどん森林に入り、灌木の小草や幼樹を食べ、樹木の枝葉を食い荒らします。そのため、腐葉土ができず、樹木自身の健康が失われ枯れます。ひいては、大雨が降れば表土は洗い流され、保水力は低下し、大災害になります。毎年、森林面積の3.4%が失われ、被害が拡大する一方です。



そのような状況を見かねた日本のお医者さん(安倍泰夫氏)が、1984年からNGOカトマンドゥを立ち上げ植林を開始し、現在、36万5千本の木が植えられました。長野県を中心に牛乳パックの回収運動を起し、その資金などで植林を行っています。牛乳パック15枚で1本の在来種の苗が購入できます。ネパールの山が日本のように緑になればと願います。

(関心のある方は、安倍泰夫著「ネパールの山よ緑になれ」春秋社をお読みください。)

<b>支援者状況</b>		<b>2012年度 (2012年4月～2012年9月)</b>		2012年9月30日現在	
区 分	人数・件数	金 額		備 考	
正 会 員	20名	入会金	10,000円		
		月 額	3,000円		
賛 助 会 員	96名	月 額	2,500円		
子供支援数	98名	月 額	2,500円		
スポット支援	25件	771,000円			

<b>新規に支援される子供たち 2012年度 (2012年4月～2012年9月)</b>				2012年9月30日現在	
氏 名	性別・学年	氏 名	性別・学年	氏 名	性別・学年
サラタ・タマン	女 2年生	ナンハシラ・マハリヤン	女 3年生	シャイリ・カナル	女 3年生
ビニシ・ネウパネ	女 4年生	クリパ・タパ	女 2年生	シタル・スナル	男 3年生
ソマイ・マハリヤン	男 2年生	アニシ・パヤルコチ	男 2年生	プルニマ・ビスタ	女 2年生
プラサンナ・マハリヤン	女 2年生	スワルナ・マハリヤン	女 3年生	プラチリ・タパ	女 3年生
ディクチャント・バハダリ	男 4年生				

<b>新中期目標 (5年計画)</b>						2012年9月30日現在
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	備 考
子供支援目標数	80名	85名	90名	95名	100名	
(現被支援者数)	81名	85名	98名			
スポット支援目標額	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	単年度
(現支援収入額)	941,977	764,000	771,000			
(現年度支援額)	335,834	494,348	300,000	300,000	300,000	
(支援繰越額)	606,143	875,795	1,346,795			
留学生支援金目標額						検討中
留学生支援金		* 300,000				

\*) 留学生支援金：11年度の賛助会費の為替差益により準備した。

<b>長期ビジョン積立金</b>						2012年9月30日現在
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	合 計
長期ビジョン積立金	454,500	503,500	272,000			1230,000

### 編集後記

今年が一番のニュースは領土問題だと思います。韓国との竹島、中国との尖閣が問題になり今までうやむやになっていたのが、一挙に浮上しました。互いが一步も譲らず問題が深刻化しています。早い解決を望みます。宇宙から地球を眺めるとどこにも国境線はありません。美しい大地、広がる大海が見え、エメラルドに輝く地球がどんなにすばらしいかを発見します。なぜ人間だけがこのように争うのでしょうか。また飽食と飢餓も同居しています。人とは何者かと考えてしまいます。

BFNは、決して富める国から貧しき国への余りの援助を目的としていません。同じ人間であり、尊厳を持って生きている人間だからこそ、互いに生きる意味を共有したいと願っています。支援を通じてNHAの子供たちから、多くの事を学びました。貧しくても目を輝かせて勉学に励む姿からネパールの未来と生きることの大切さを教えてくれます。

BFNは、皆様方の愛情のこもった大切な御支援金を決して無駄にしないという強い思いでサポートしています。これからも御支援を宜しく願います。